

先輩農業者インタビュー



新規参入

水稲・養蜂

富山県南砺市

松本千尋（大阪府出身）

國本紗季（熊本県出身）

就農のきっかけ

～食の大切さを考える～

松本さんは、コロナ禍をきっかけに「食の大切さ」について深く考えるようになりました。同じ頃、「人と人との関係だけでなく、生き物や自然との関係についても考えたい」と思っていた國本さんに声をかけ、循環型農業を実践する「なべちゃん農場」（南砺市福光）の渡辺さんのもとへ、二人で弟子入りました。

松本さん（大阪府出身）は、富山県南砺市旧利賀村に移住し地域づくりの仕事に携わっていました。一方、國本さん（熊本県出身）は、同じく利賀を拠点に活動していた劇団 SCOT に所属しており、二人はそこで知り合いました。

中山間地で米の自然栽培を学ぶ中で、「農を営みながら暮らしていく」という生き方を目指すようになりました。

（一社）Honey & Cotton 設立

～農から、人と人・人と自然とのつながりを体感～

二人とも、農業はまったくの未経験からのスタートでした。しかし、中山間地・小院瀬見地区（南砺市福光）の田んぼで自然栽培による稲作を学ぶ中で、「人や自然、周囲の生き物が互いにつながり、助け合いながら米は育つ」ということを実感しました。この気づきを原点に、2023年に一般社団法人 Honey & Cotton を設立し、農を中心とした独自の活動を開始しました。現在は、小院瀬見の農園と南砺市城端のアトリエを拠点に、以下のような活動を行っています。

自然栽培による米の生産・販売、養蜂による蜂蜜の採取・販売、草木染めによる小物づくり食や暮らしをテーマにしたイベント企画、農の体験会などを通して、「地球の循環を維持することの大切さ」を問いかけています。

～米づくりと養蜂～

うるち米・もち米・古代米あわせて 約 120a を自然栽培で生産しています。直売のほか、南砺市内の学校給食にも提供しています。セイヨウミツバチを殺ダニ剤不使用で飼育を行い農薬検査も実施しながら、季節ごとの花の蜜を採取しています。採蜜日によって蜂蜜の味が異なり、季節の花と蜜と地域の植生の関係を観察することも楽しみの一つです。蜂蜜は、市内直売所、県内外セレクトショップ、各種イベントなどで販売しています。蜂の受粉活動によって、花や野菜は実や種をつけ、その恵みを私たちは食べ、また鑑賞しています。人の世話を必要とするセイヨウミツバチとの関係にも、「つながり」の大切さを感じています。



今後の展望

～つながり～

Honey & Cotton では、農産物の生産・販売に加えて、田植え・稲刈り体験教室、養蜂場の見学・体験、周囲の里山散策、演劇やライブなど、様々な人が色々な角度から参加できる企画を実施しています。「人と人、人以外の生き物、そして自然のすべてがつながっている。その関係を一緒に考えられる場をつくりたい。」そんな思いのもと活動を続けており、現在は沢山の支援者に支えられて活動しています。県内外から、様々な年代やライフスタイルの方が、幅広く参加しています。



就農希望者へのメッセージ

新規就農を考えている方へ

事業を始めるには、準備資金と、事業が軌道に乗るまでの運転資金が必要です。また、自分たちの商品をどのように販売するのか、事前にマーケティングしておくことも重要だと感じています。試験販売ができれば、生産物への評価やお客さんの反応を知ることができます。生産に見合った価格で販売できる形を探していくことが大切です。

何よりも重要なのは、「自分たちは何がしたいのか」を明確にし、それに向かって実践し続けること。そして一番大切なのは、人とのつながりを大切にすることだと思っています。人間関係の中から、次の「つながり」が生まれていくと感じています。

活動のテーマ

「私たちは、今日以降を共に生きる人、そして 10 年後、100 年後、200 年後を生きる人や、私たちを取り巻く命に、何をつなぎ、何を手渡していけるのか。」

この問いをテーマに、活動を続けています。

2026 年 10 月 31 日、11 月 1 日の2日間に渡って、農園の所在地である南砺市小院瀬見で「小院瀬見田んぼの芸術祭」を開催します。私たちの取り組みや想いに興味をもっていただけたら、ぜひお気軽にお問い合わせください。



令和 7 年 9 月 経営支援課取材